

(6) 東海



東海地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)

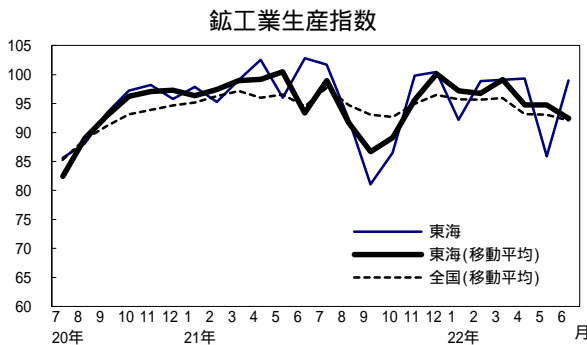
前回からの主要変更点

	前回 (令和4年6月)	今回 (令和4年9月)
景況判断	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる
個人消費	このところ持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

4 - 6月期の鉱工業生産は、「輸送機械」が減少したこと等により、前期比2.1%減となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。東海の最新月は速報値。
2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
3. 東海は、2022年3月までは中部経済産業局「管内鉱工業の動向」及び関東経済産業局「鉱工業生産の動向」により、2022年4月以後は東海各県の「鉱工業指数」により、内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	40.1	0.4	7.4	0.7	25.7	21.3
電子・IT、電気・情報通信	13.3	7.3	1.1	0.6	11.3	19.3
石油・石炭、化学、プラスチック	13.0	1.0	1.2	4.7	0.6	14.5
汎・生産・業務用機械	11.2	0.8	3.9	7.0	7.6	10.5
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	6.4	0.0	2.0	2.4	1.7	1.4
鉱工業	100.0	1.2	2.1	0.2	13.5	15.3

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4 - 6月期、6月は速報値。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

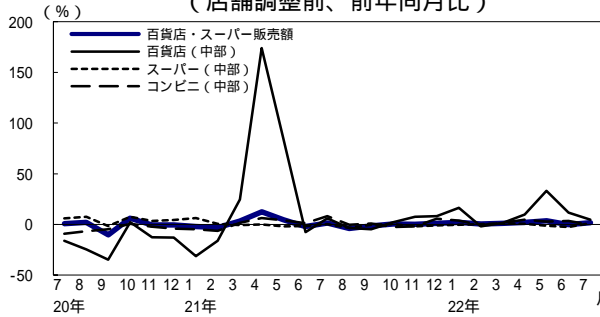
(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4 - 6月期は前期比2.4%増となった。月別にみると、4月は前月比0.3%減、5月は同4.4%増、6月は同3.0%減となった。

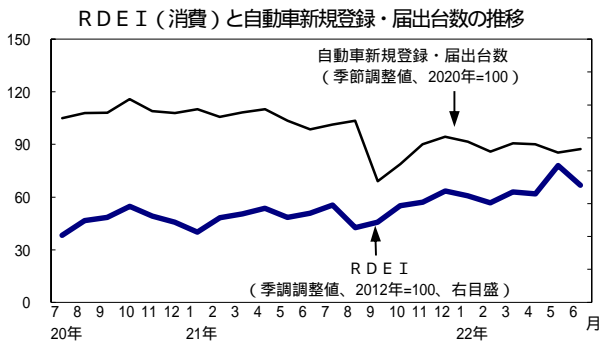
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4 - 6月期は前年同期比1.9%増となった。月別にみると、4月は前年同月比2.1%増、5月は同3.7%増、6月は同0.1%減となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2022年4月	6月	2022年4月	5月	6月	7月
RDEI(消費*1)	2.4	0.3	0.3	4.4	3.0	-
百貨店・スーパー(*2)	1.9	2.1	2.1	3.7	0.1	1.6
百貨店(*3)	17.3	9.8	9.8	33.2	11.8	4.7
スーパー(*3)	1.0	0.7	0.7	1.3	2.4	1.1
コンビニ(*3)	3.6	4.8	4.8	2.7	3.3	0.5
乗用車(*4)	15.9	18.3	18.3	17.4	12.1	10.9
(季節調整値)(*4)	1.9	0.4	0.4	5.3	2.3	4.8



(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

2022年7月は速報値。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%) 最新月は速報値

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

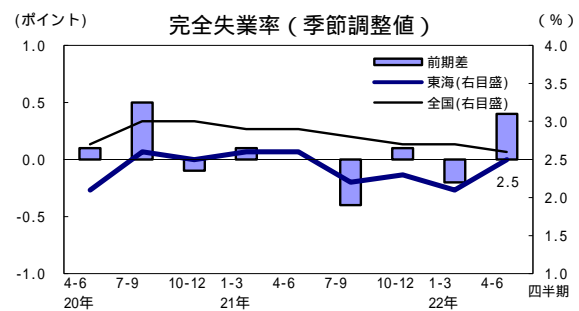
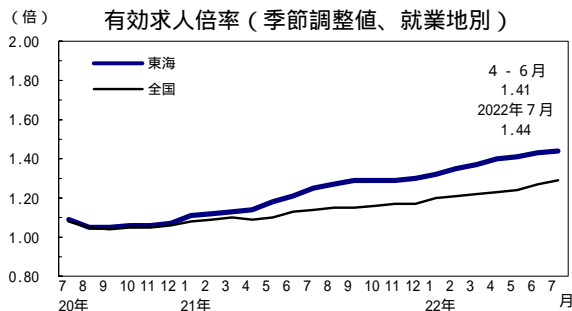
2022年7月は速報値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年8月調査）景気判断理由の概要

6. 東海

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
		判断	理由
現状	家計 動向 関連	□	・客単価は全体的に低い傾向にあるため、1人当たりの購入点数に変化がなくても、売上は減少している（衣料品専門店）。
		▲	・8月は売上の最盛期であるはずが、新型コロナウイルスの感染拡大により来客数が再び下降傾向にある。政府の行動規制等がなかった分、お盆の催事や週末の行楽客などの来店はあるものの、メイン客層のオフィスワーカー等の来店が少なかったことにより、平日の来客数が減少している（コンビニ）。
		×	・新型コロナウイルスの感染拡大により、法人宴会、同窓会などの宴会需要が5月から6月までと比べて2割ほど減少している。レストランも同様に予約が減少している（都市型ホテル）。
	企業 動向 関連	□	・部品、原材料の値上がりが見止まらない。以前の1.5～2倍くらいになっている物もたくさんある（輸送用機械器具製造業）。
		▲	・電子部品の需給問題により、機器生産が計画どおりとなるか不安な状況が続いている。また、原材料の価格高騰により利益が圧迫され、前年比で減益は避けられない（電気機械器具製造業）。
		○	・仕入れなど物価上昇の影響を、少しずつ売価に反映できる企業が増えている。新型コロナウイルスの新規感染者数は相変わらず減っていないが、市場自体がこの状態に慣れてきている。人流も以前と比べると増えており、対面のサービス業では来店客が少しずつ増えてきている。しかし、物の流れについては、材料の納品状況が改善していない業種もある（公認会計士）。
雇用 関連	□	・新規求人数は3か月前と比べると微増である。宿泊、飲食業では3か月ぶりに増加がみられたが、製造業では数か月ぶりに減少となった業種が目立った。円安の影響が出ているようである（職業安定所）。	
	○	・年度の半期折り返しに合わせた派遣募集が多い（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント		□：新型コロナウイルス感染症の関係でリモートワークが増え、光回線の新規申込みが増えた（通信会社）。	
		▲：土日やお盆休みを中心に来店客は増えてきたが、その分平日の来店の動きが鈍い（百貨店）。	
先行き	家計 動向 関連	□	・変わらないというより、分からない。商店街は、新型コロナウイルスの感染状況ですぐに変化してしまう（商店街）。
		▲	・秋以降円安による商材の値上げがまだまだ控えていて、買い渋りが予想される（一般小売店 [生活用品]）。
	企業 動向 関連	□	・コスト増を価格に転嫁できないため、給料としての人件費の伸びがほとんど期待できない中小企業が多い。給料が上がらないと景気回復は期待できず、当面現状の景気が続く（金融業）。
		▲	・物価の上昇に伴い、嗜好品離れが進んでいる。販売量からみても回復は難しい（食料品製造業）。
	雇用 関連	□	・今年度上期は人材不足から求人数が一気に増えているが、この状況は製造業やサービス業を中心に変わらず求人数は推移すると考える（人材派遣会社）。
	その他の特徴 コメント		○：今後、国の新型コロナウイルス感染症対策の緩和でインバウンドなどが期待できる（テーマパーク）。
		□：2～3か月先は例年秋需で景気が良い時期となるが、今年は、原材料の2回目の値上げが10月から実施されると発表があり、コスト上昇分を販売価格に転嫁できず、景気は厳しく現状の悪いままが続くと見込む（パルプ・紙・紙加工品製造業）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（東海）の推移（季節調整値）

